


取組【7】	観光資源を表現する施設の整備	 連携②③④⑤⑥
観光地の資源特性 ◎：優先的に実施 ○：基本的に実施 ★：特に配慮して実施		実施主体 （特に効果が高いもの）
◎街並み ◎都市 ◎社寺 ◎自然風景 ◎スキー場 ◎農山村地 ◎温泉		<input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 観光推進組織 <input checked="" type="checkbox"/> 民間事業者
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">取組の狙い</div> <p>○観光地づくりの導入期において、観光資源を表現する施設を立ち上げることにより、観光地としての拠点の創出と地域イメージの定着を図る。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">取組推進・障害打開のポイント</div> <p>○発見・創出したコンセプトの適切な反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発見・創出したコンセプトを表現することにより、観光客に地域の魅力をより効果的に伝えるため、創出したコンセプトの反映と明確なターゲットの設定による施設の整備・運営が重要となる。 ・民間の進出によりコンセプトに沿わない（景観になじまない）施設が建設される場合がある。このような状態を回避するため、例えば、施設の整備にあたって、条例により施設建設の際の統一的基準を設けることなどが効果的である（例：富士河口湖町では、土地開発行為の適正化のための条例を制定することにより、後の施設建設の際の統一的基準となり、無秩序な開発の防止を図っている）。 <p>○費用対効果を考慮した効率的な整備・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設整備には多額の資金が必要だが、考え方として、①施設（ハード）そのものは簡易な建物にし、計画に基づく明確なコンセプト、ターゲットの設定及びセンスの良さ（ソフト）に重点を置いて整備する、②空き店舗等（まちなかの空き店舗だけでなく、廃校になった学校、医院等）の活用により、少ない資金でしかも地域の特徴を活かした施設とする、③国、県等の支援制度（まちづくり交付金等）を有効に活用するといったことが挙げられる。 ・管理運営の費用（ランニングコスト）については、建設後の運営を民間団体や第三セクターに任せ、独立採算性をとることにより低減を図ることが想定される。この際には行政と民間の役割分担の明確化と経営意識の定着を図ることが重要である。また、職員についてはボランティアスタッフ等を有効に活用することも考えられる。 ・「立派で充実した設備が必要」というイメージがあるが、「交流できる場所さえあれば人は集まることができる」という考え方に基づいて施設を整備することが必要である。 ・拠点となる施設を建設する際には、造って終わりではなく、その施設をどのように活用し、黒字化させていくのかといった視点に立って仕組みを構築することが重要である。 <p>※例えば、温泉地などにおいては、旅館そのものが地域の観光的な特徴を表現する施設と考えられる。旅館の魅力アップに当たって最も障害となるのが温泉街の再開の遅れである。例えば、整備を積極的に進めたくても、廃館が残ったまま整備が進まないケースや、除却はしたものの空き地のままとなっているケースもある。</p> <p>これらの打開策としては、例えば、まちづくり交付金の活用による廃館の除却やその後の施設整備の実施、あるいは空き店舗対策事業の活用による事業内容の再検討など、各種支援制度を有効に活用することが効果的である。また、小野川温泉（フロー図No.5）のインフォメーションセンターように、従来ある施設を活用するといった考え方も必要となる。また、阿寒湖温泉のように、地元で旅館を経営する企業が廃館を買い取るにより地域再生を図っている地域もある。</p>		

期待される効果

- コンセプトに基づく施設整備が地域イメージの定着に繋がる。
- 観光拠点を中心とした周遊ルートの定着に繋がる。
- 行政主導の整備による施設集積が民間施設進出の機会拡大に繋がる。(さらなる地域活性化に繋がる)

連携が必要な取組

- 観光地づくりの基軸となるコンセプトの発見・創出 (No.2)
- 発見・創出したコンセプトの各種構想・計画への位置づけ (No.3)
- 環境・景観保全のための条例、協定、制度の策定 (No.4)
- 各支援助制度の効果的活用 (No.5)
- 観光資源を体験するプログラムの発掘・実施 (No.6)
- 環境・景観の保全、整備 (No.8)
- 観光の立ち寄り、情報拠点となる施設の整備 (No.9)
- 観光客の足となる二次交通手段の整備 (No.10)
- 観光客の移動をサポートする仕組みの導入 (No.11)
- 発見・創出されたコンセプトを表現するイベントの実施 (No.12)
- 観光資源を広めるための広告宣伝活動 (No.13)

参考事例

○事例1 コンセプトに沿った観光施設の整備 (富士河口湖)

地域のコンセプトである「五感文化構想」(コンセプト:体験・体感も含めた“五感”(見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触れる)による街おこし政策、ターゲット:個人旅行、女性観光客)に基づき、施設整備を実施している。

※五感文化構想に基づく事業

「触れる」:大石紬伝統工芸館、ネイチャーガイドツアー

「嗅ぐ」:河口湖ハーブ館、ハーブフェスティバル

「見る」:河口湖美術館、河口湖ミュージアム、中原淳一美術館

「聴く」:河口湖ステラシアター

「味わう」:ブルーベリー農園、サクランボ狩り、いちご狩り

<特徴>

- ・「五感文化構想」という明確なコンセプトの基に各種施設を運営しているので、地域全体に一体感が生まれ、観光客へイメージが伝わりやすくなっている。また、それぞれの施設の距離を敢えて離し、レトロバスを通すことによって滞留時間を長くする工夫をしている。
- ・町立施設の大石紬伝統工芸館は、保育園だった施設を改修して開設し、貴重な伝統工芸の継承に貢献している。一般的に施設建設には多額の資金が必要となるイメージがあるが、地域にある施設を改修することにより、低予算でも素材を活かしたセンスの良いものを造ることができる。

○事例2 「昭和ロマン蔵」事業（豊後高田）

市所有の高田農業倉庫を地域のコンセプトである「昭和の町」のイメージに沿った形で整備している。昭和ロマン蔵を整備することによって、周遊拠点及び昭和の町のイメージの醸成に成功しており、町中だけでは困難であった滞在時間の拡大にも大きく貢献している。

※昭和ロマン蔵：駐車場に隣接する形で整備されており、昭和の町の商店街に入る前にそこに入場できるようになっている。中には、「駄菓子屋の夢博物館」、「昭和の絵本美術館」、「昭和の夢三丁目館」等があり懐かしい昭和の町を堪能できるようになっている。

<特徴>

- ・昭和期のおもちゃ収集では日本一と言われている人物を町にスカウトして「駄菓子屋の夢博物館」を開館している。

○事例3 夢の蔵のオープン（酒田）

港近郊にある山居倉庫（米の貯蔵庫）を現役のまま活用し、景観を崩すことなく増築、休憩施設、お土産屋、展示室も設けることで、滞在時間を伸ばすことに成功している。

<特徴>

- ・物販機能、飲食機能、展示機能等の多様な機能を配置することで滞在時間の拡大に成功している。
- ・中心市街地にあった物産館を観光地である山居倉庫に移転することで、物産品が観光客の目にとまるようになったことや、併せて実施していた商品開発等の効果により売り上げが大幅に伸びている。